

# ぱれっと

4 月号

仙台市市民活動サポートセンター通信

2015 No.188

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

## はじめてのサポセン

市民が自発的に社会の問題解決に向け行動することを「市民活動」「ボランティア活動」といいます。そしてこのような活動をしている団体（組織）のことを「NPO」と呼びます。NPOは自らの手で「自分たちの住む社会をもっと良くしたい」という気持ちを持った市民の集まりです。まちの美化活動、地域の高齢者のために食事を届ける、里山の保全と活用、音楽やスポーツでまちを盛り上げる…など、意識して周りを見渡してみると、実はたくさんの人たちが活動をしています。サポセンは、そんな活動を応援する場所です。



### 情報の受発信をサポート

サポセンの情報サロンでは、市民活動に関するイベント情報やボランティア情報などのチラシ、ニューズレター、団体パンフレットなど様々な情報を見ることができます。同時に、市民活動団体のみなさんから、これらの情報の持ち込みを受け付けています。

### 想いを整理し、課題を解決するお手伝い

ボランティアや市民活動、シニア世代の活動に関する幅広いお問合せ、ご相談に応じます。また、企業の社会貢献活動、行政などとの協働についてものご相談も受け付けます。



### つながることで、活動をステップアップ

活動の幅を広げ、より成果をあげるためには、様々な立場の方々との連携が効果的です。サポセンは地域と市民活動団体をつないだり、市民・企業・行政などをつなぎ、協働によるまちづくりを応援します。



特集

市民の力を支える  
活動のはじまり  
4つのストーリーから



誰もが暮らしやすい持続可能なまちに向けて、地域や社会の課題を解決する人や組織を応援する情報をお伝えします。

## 活動のはじまり 4つのストーリーから

仙台のまちには、「社会や地域のために何かしたい」という思いを持っている方は、なんと79.6%(平成24年11月仙台市教育委員会調べ)。全国平均67.4%(平成24年1月内閣府調べ)より10%以上高く、「自分たちのまちを大事にしたい」と思う人が多いようです。

日々の暮らしの中には、いろいろな課題があります。「自分の得意なことで、何か役に立ちたいな」「まちをきれいにしたいけど、どうしたらいいのかな」「子どもが安心して遊べる場所があったらいいな」「地域の情報を発信したいな」など、課題解決のために自分たちの思いを実現させようと活動を始めた4つのストーリーを紹介します。

千田 麻美 さん

活動をはじめるとは、  
自分ができるところをみつける

子どものサポートをしている団体に関心を持った千田さんは、「自分のまちには、どんな活動があるんだろう」と、事前に調べることにしました。同時に思いを整理するた



めに考案した千田さんの方法は、「わたし会議」。(上写真：千田さん) 紙とペンを用意し、関心があることと、気が向かないことを分けて書き出します。自分が考えていることを「見える化」することで、活動のテーマが見つかり、他人と思いを共有することができるのだそうです。千田さんのテーマは、「子ども」。そして、印刷会社で働く自分自身のスキルを活かすことでした。

千田さんには、ボランティア活動のマイルールがあります。「仕事があるので平日はやらない。気が向かないことは引き受けない。相手にも自分にも無理をさせない」。活動を継続するうえでのヒントになりそうです。

みつける

関心ごと・得意なことでも無理なく活動！

「自分には、こんなことができそうだ」。それを活かせる活動や気になるテーマが見つかったら、サポセンで情報収集しよう！団体情報やボランティア情報をそろえてお待ちしております。あなたに合った活動が見つかるかもしれません。

佐々木 俊一 さん

ちょっとした時間を利用して  
ボランティア活動をはじめると

暮らしに時間の余裕ができ、「誰かのために何かをしたい」と、モヤモヤしていたシニア世代の佐々木さん。ボランティア体験ができる「ちょっと。ボランティア」(\*1)(右写真)



に参加しました。NPO 法人グリーンバードとまちのお掃除、西公園プレーパークの会で公園づくり、NPO 法人ふうどばんく東北 AGAIN(あがいん)では、食品箱詰め作業と、様々な活動を体験しました。

活動体験には、若い世代からシニア世代まで、いろいろな人たちが参加しました。佐々木さんは、一人ではできないことも、同じ目的を持って活動することで、予想以上の力が発揮できると実感。何より「活動に関わる人たちが生き生きと輝いていることに驚いた」と話します。「ボランティア活動は、シニア世代にとって豊かな暮らしの糧になる。まずは、一度体験してほしい」と、同世代へ参加を呼び掛けています。

はじまり

参加しやすいことから、体験してみる！

サポセンでは、ボランティア体験企画を行っています。サポセンホームページをチェックしてください。

【おススメの体験】NPO 法人 greenbird(グリーンバード)

TEL : 03-5469-5318 FAX : 03-5469-5338

mail : information@greenbird.jp HP : http://www.greenbird.jp/

多賀城プレーパークの会のみなさん

仲間が集まれば、  
思いがかたちになり活動が始まる



プレーパークとは、子どもも大人も誰もが自分の責任で自由に遊べる場所。各地で、地域住民やボランティアによって自主運営されています。「私たちのまちでも、プレーパークをやりたい」。

多賀城市に住む八嶋美由紀さんは、子育てをしながら思いを温めていました。

仙台市内で活動する「西公園プレーパークの会」の佐々木啓子さんの話を聞きたいと、「ハジマル、フクラムプロジェクト」(\*2)に参加したのが2014年9月。会場での出会い、意気投合した3人の仲間を中心に「多賀城プレーパークの会」を結成しました。2ヶ月後には仙台港緩衝緑地公園で、多賀城プレーパークを開催し大きな反響を得ました。(上写真)「何か始めたいと思ったら、気になる場所にでかけ、自分の思いを笑顔で語ってみる」。これが、「多賀プレ流」の思いをかたちにする秘訣です。

つながり

応援してくれる協力者を見つける！

サポセンでは、団体同士のマッチングや交流の場づくりを行っています。

【多賀プレと協力】西公園プレーパークの会

TEL : 090-7562-6154 mail : kurobe\_s@nifty.com

HP : <http://nishikouen-playpark.jimdo.com/>

水沼 幸三 さん

市民ライターとして、  
地域の魅力を発信する活動をはじめ



2014年の夏に開催された「市民ライター講座 2014」(\*3)(写真左)に参加したことがきっかけで、情報発信の活動を始めた水沼さん。仙台市青葉区宮町地区の地域情報誌「038PRESS(おみやぶれす)」の編集委員として活躍しています。

情報誌の編集委員は、年齢も職業も様々。みんなで意見交換しながら作成する過程が面白く、まちの人々の思いや、問題意識とその解決策に触れられることが、市民ライターの役得だと感じています。

「客観性を重視する新聞などのメディアに比べ、地域に住んでいる人たちへ住民目線で伝える地域メディアは、当事者意識が出るのが興味深い」と水沼さん。「書き続けることが文章上達のコツ。躊躇せずに挑戦し世界を広げて欲しい」と、まずは地域に飛び込んでみることを勧めています。

かつやく

まずは、はじめの一步を踏み出す！

サポセンでは、団体同士のマッチングや交流の場づくりを行っています。

【ライター求む】お！宮町地域情報編集局

TEL : 022-225-7211

HP : <http://038press.jimdo.com/>



サポセンで  
Get!

あなたの思いを応援！

サポセンは、2014年度開催した3つのプロジェクトをまとめた事業実施レポート『ちいさなマチノワストーリー』を作成しました。これから活動を始めたい方々へ。何かヒントが見つかるかもしれません。

2014年度に行った  
サポセン3つのプロジェクト

(\*1)「ちょっと。ボランティア」

「何ができるかわからないけれど、地域のために何かしたい」という方のためのボランティア活動体験会。

(\*2)「ハジマル、フクラムプロジェクト」

活動を始めた人たちのお話を聞きながら、アイデアや想いをふくらませるトークイベント。

(\*3)「市民ライター講座 2014」

「自分たちの住むまちを、文章で伝えたい」そんな思いを持った人たちが、プロから技を学ぶ講座。

サポセンへ  
行こう！

まちのあちらこちらで、一人ひとりのちいさな思いから、様々な活動が生まれました。立場を越えて、それぞれのできることや資源を持ち寄ることで、「こうしたらもっと暮らしやすいまちになるのになあ」と感じていたことを解決できます。ちいさな行動を起こすことで、仲間が集まり、思いがけない協力者に会うこともあります。サポセンは、そんなみなさんの活動を応援していきます。

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

## 「市民協働と防災」テーマ館 閉幕

第3回 国連防災世界会議 in 仙台 2015年3月14日(土)～18日(水)

仙台市市民活動サポートセンターは、国連防災世界会議における、パブリック・フォーラムの「市民協働と防災」テーマ館となり、協働によるまちづくりの拠点として、多様な地域団体の取組みを発信する場となりました。来場者は、4日間で約3300人と、連日賑わいを見せました。

「市民協働と防災」テーマ館を支えたボランティアの方々は、のべ100人。会場案内などを行う運営ボランティ

ア。出展団体や来場者の方に取材を行い、ブログで発信する情報発信ボランティア。外国のお客様のための、通訳ボランティア（派遣された語学ボランティアの他、展示を行うAIG社員の方々）。多くの市民が参加したことで、防災への思いが集まり、国や地域を越えた様々な対話が生まれました。



防災からまちづくりを考える実行委員会  
事務局長 伊藤 浩子

今回の国連防災世界会議仙台開催での特色となった、多くの市民参加型企画。その中での「女性と防災」「市民協働と防災」の2つのテーマ館では、「市民参画」が表現されました。本体会議では、「仙台防災枠組 2015-2030」および「仙台宣言」が採択されました。今後はいかにその内容を市民が理解し、自分事としての取組みにしていくのか。この機会に参加した人々がつながり、まちのチカラとなっていくのか。ここからが新たな始まりです。

仙台市市民活動サポートセンター  
センター長 菊地 竜生

「国連防災世界会議と市民の距離を近づけたい」これが当センターの考えの一つでした。結果的には、NPO、地域団体などの出展者や、ボランティアとして運営に参画して頂いた市民の方など、多様な方々と思いと行動を重ねながら、防災や復興について考える場をつくることができました。

当センターは、ここで生まれた学びや出会いをもとに、これからも地域の防災やまちの復興を、市民のみなさんと推進していきます。

### つながる つなげる サポセン

#### ▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

今月の休館日：4月8日(水)・4月22日(水)

発行日：2015年4月1日



発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042  
HP <http://www.sapo-sen.jp>  
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>  
Twitter <https://twitter.com/sensapo>

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター

編集人：菊地竜生 太田貴 菅野祥子 葛西淳子 松村翔子